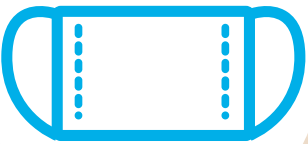


からしだね

vol.37

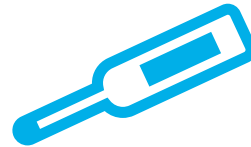
2020年9月

マスク



マスク着用徹底しています

体調管理



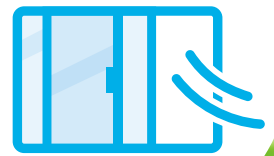
従業員の検温をしています

消毒



消毒をおこなっています

換気



換気をおこなっています

社会福祉法人ベテスタでは全施設の
感染症対策を実施しています。

与える福祉ではなく、その人にとって必要なことをそのひとの自立に向けて支援する

2020年7月1日より、理事長職を拝命いたしました。

まずここ数か月は、コロナ対策で職員一丸となり、利用者の皆様に感染しないように最大限の努力を踏まえてまいりました。皆様すでにご承知のことと思いますが、全国では、障害者支援施設におけるクラスターの発生事例が出現しております。事例研究によりますと、特に入所支援施設における事例では、入所者はじめ、職員においても壊滅的状況に陥っていると報告を受けております。当法人では、感染予防対策を最重要課題として現在も取り組んでおります。保護者の皆様や関係者の皆様には、夏祭りを筆頭に各種行事の中止や訪問・面談の規制など、多大なご不便をおかけしており、心よりお詫び申し上げます。そのご協力の甲斐あって、幸いにも現在のところ、ひとりの感染者をだすこともなく今日を迎えております。

しかしながら、予断を許されない状況に変わりなく、日々、感染予防に努めております。また、感染予防対策が日常化した際の行事の在り方や面談の実施方法等についても研究を重ねて準備を進めております。保護者の皆様はじめ関係者の皆様におかれましては、引き続きご協力のほどを重ねてお願い申し上げます。

当法人は、ここ数年、利用者の皆様の多様なニーズにお応えできるように施設整備を整え、拡大してまいりました。おかげをもちまして、母体である入所支援施設（こいしろの里）、短期入所、グループホーム（こいしろ・ひまわり）、生活介護、相談支援、放課後等デイサービス（びーとる）、就労支援系の施設（まある・ぱんカンぱん）、自立の家、とひとつお揃い揃えることができました。

当法人も創設期、拡大期を経て、安定期に突入し



たと考えております。今後の課題としては、なんといっても支援するのにもされるのにも『ひと』であり、『ひと』がすべてといっても過言ではありません。原点に立ち返り、じっくり人材育成に注力し、支援力の充実した法人にしてゆく所存です。今後も変わることを恐れず、たくさんのご縁を大切に、着実に歩みを進めていく法人となりますよう努めてまいりますので変わらぬご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

2020年7月より施設長として就任しました。前職の副施設長として関係者の皆様には大変、お世話になりました。また、今後は施設長として全身全霊をもって社会福祉法人ベテスタをより一層、盛り上げていく次第でございます。また、新型コロナウイルス対策としまして、保護者様および関係機関の皆様には大変ご迷惑をおかけしております。皆様のご協力もあって、当法人の感染者はゼロです。今後も予断を許さない状況ではありますが、引き続き感染対策をしっかりとしていくため、新型コロナウイルスの感染状況をしっかりと把握し、職員一丸となって対応していきますので引き続きご協力のほど宜しくお願いいたします。

さて、当施設の理念「与える福祉ではなくその人にとって必要なことをその人の自立に向けて支援する」と前任者の想いをしっかりと受け止め、今まで以上に利用者や職員にとってよりよい施設になるよう努めたいと考えております。また、以下の3点に重点をおいて取り組んでいきたいと考えております。

1つ目として、私自身のスキルアップに励みます。なぜならば、施設長という立場になり、今まで以上に私の言動が職員等に影響力があるということをふまえ、冷静に尚且つ的確な判断ができるよう努力します。また、利用者、職員、保護者、企業、行政、関係機関の皆様と信頼関係を構築し、何でも話しあえる施設長になれるよう努力したいと思います。社会福祉法人ベテスタに貢献できるよう日々、精進していきたいと考えております。

2つ目として、職員個々のスキルアップを目指します。大きな理由として、入所者の高齢化にともない支援力および介護力の強化をしなければならないと痛感しております。なぜならば、障がい者支援施設（入所施設）こいしろの里では、幅広い年齢層の利用者が生活を共にしております。とりわけ、入所者の高齢化も目立つようになり支援だけではなく介護も必要な場面が多くなってきております。そのため現行通りの



支援だけでは入所者の生活を安心・安全に守ることができないようになってきております。また、利用者個々の様子および状態把握をしっかりと行い適切な支援および介護を提供していくことが必須となってきております。今まで以上に職員間の情報共有を密にし、入所者個々の障がい特性および年齢にあった支援や介護を取り入れられるよう、施設内外での研修に率先して参加し能力開発に取り組み、施設内において職員同士が日々利用者のケースについて話し合い、支援および介護を提供できるようにしていければと考えております。

3つ目として、社会福祉法人ベテスタを笑顔あふれる施設にしたいと思います。当法人は、子どもから大人まで幅広い年齢層の方々が利用されており、子どもたちの場合は、楽しく過ごせる場所となり、大人たちの場合は、作業と休憩時間（余暇時間）のメリハリのある時間を提供し、休憩時間（余暇時間）には職員と楽しく会話等をされて過ごせる場所となるようにしたいと考えております。

以上3点について、時間はかかると思いますが職員一丸となって一歩ずつ着実に進んでいけるようにしていきたいと思っております。利用者、保護者、職員、関係機関の皆様と共に社会福祉法人ベテスタが更なる飛躍ができるよう、日々精進していきたいと考えておりますので今後ともご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



いつもと違う夏祭りに、利用者さんはそわそわ落ち着きがないようでした。

食堂に集まりいつもの掛け声から利用者さんの笑顔がではじめます。

いつもとは違うご飯で「おいしいな」「ありがとう」など喜びの声が聞け、中には「おなかいっぱい、お肉が食べれやん。でも、食べたいからおにぎりのこしていいかな?」と聞いてくる利用者さんもいて、思いおもいに食事を楽しまれました。

Dホールに移動し、前日から練習してきた盆踊りをやぐらの周りで踊り歩き、日ごろあまり前に出ない利用者さんも盛り上がる事が出来ました。

盆踊りが終わってから、かき氷と綿菓子を提供しました。

すごく大きな綿菓子を見て「くもみたい」と利用者さんがはしゃいでいるのを見た職員さんは、カメラのシャッターを押す手が止まりませんでした。

例年は外部の方を招いたイベントでしたが、今年は新型コロナウイルス感染対策で呼ぶことは出来ませんでした。それでも、利用者さんに楽しんでいただけてホッとしています。

とても楽しい一日でした。





今年の農業の作物は「からし菜、ゴマ、さつまいも、お米、ぶどう、お茶」を耕作しています。

からし菜とゴマ、サツマイモは明野高校様と合同で栽培をしています。

5月からし菜の収穫時期となりました。今年はコロナ禍の影響で学校が休校中でしたが、作物は収穫を待ってくれません。支援員と利用者、明野高校の先生と一緒に収穫し、生徒達は映像を見ながらのリモート（ICT）で参加。初めての試みではありましたが、動画で収穫を体験でき良い思い出になったと思います。

6月には学校が再開し、さつまいもの苗を生徒さん達と一緒に植えることができ、楽しく作業ができました。

収穫したからし菜を生徒さん達と一緒に種のふりい掛けの作業をし、無事に約21kgの製品として業者に引き渡すことができました。

9月にはゴマの収穫も控えています。今後も明野高校様とは農福連携の活動を続けていきます。

農業は自然との闘いでもあり、今年は嬉野小原町で栽培をしている稲が鹿に食べられてしまい、穂が全滅の憂き目にあいました。その為、獣害対策も来年の課題であります。

2年目になるブドウの栽培は病害虫防除対策、収穫量少量、種なし栽培に失敗など、まだまだ栽培の研鑽が必要だと痛感しました。

農副連携を含めて地域と利用者が交流を続けて、やりがいのある活動として取り組んでいきます。

特大プール購入しました！



泳げるぜ！

潜れるようになったよ♡

おっきい プール
気持ちいいよ！！



そいや！

今年はコロナ禍で夏休みが短かったのに加え、楽しみにしていた夏の様々なイベントがことごとく中止になり、また猛暑が続いたことでびーとるを利用している子どもたちは心身共にストレスを感じているようでした。

そんな子どもたちを元気にしてくれたのは、まある中庭に出現した巨大プールです。昨年まで使用していた大きなビニール製のプールが破れてしまったので、奮発して水のろ過・循環装置付きの本格的な巨大プールを購入しました。水深のある大きなプールなので、ラダー（専用の脚立）に上らないとプールに入ることができません。はじめはラダーに上るのを怖がる子どもたちでしたが、勇気を出してラダーを上りプールに入ったら大喜び。潜水する子、バタ足をする子、水中歩行する子、職員の背中に乗って動き回る子等々、毎日プールで水遊びを満喫しました。

職員が山で竹を取ってきて樋と竹の器を作り、まあるのテラスで流しそうめんをしました。フォークですくえずに手でつかんでしまう子、すくえずに職員にすくってもらう子、みんなが楽しく過ごしたくさん食べてとても満足げでした。暑い中大汗をかいて準備をしてくれた職員に感謝し、子どもたちみんなでお礼を言いました。

中部台公園のトリムコースを散歩したり、ドライブに出かけたり、おやつを作ったり、短い夏休みでしたが、子どもたちは楽しかった思い出がたくさんできたのではないのでしょうか。



生活支援員（就労B）

関口 信人

就労継続支援B型に通う利用者様の支援と工賃向上を目的として営業活動中心に担当させて頂いています。ぱんカンぱんでは利用されている方の障害や個々の特性に応じて、職員と一緒にパンの製造しています。開設から3年目を迎え、「パン工場に来てよかった。」と思っただけのようなご支援ができるよう主任として努めてまいります。



生活支援員（就労移行）

橋 達也

主に就労移行支援に通う利用者様のご支援を目的に関係事業所様や企業様への営業活動をさせて頂いております。障がいのある方に、安心して明るく、強く、笑顔で生活していただけるようなサポートをまあるの名のごとく『輪』の心で誠心誠意努力いたす所存でございますので何卒よろしくお願い申し上げます。

新主任



相談支援員

松本 知加

相談支援専門員で、福祉サービスを必要とされる方を支援させて頂いています。「新しいこいしろのかたち」として動き出すことになり、こいしろの里入所施設の主任をさせて頂くことになりました。利用者それぞれの個性を活かしつつ、利用者と職員が笑顔あふれる施設となるように目指していきます。



事務員

中村 克司

事務方は職員を支えるところだと思っています。令和3年度に障害福祉サービス等報酬改定がまたやってきます。食事提供加算の動向は気になりますが、報酬改定が出る前に次年度予算作成など、頑張って乗り越えます。



生活支援員
(作業・生活支援)
倉井 祥基

支援業務と作業関係を担当させていただいています。新型コロナウイルスが流行っている状況ではありますが利用者さんの日課の中心になる作業を継続して行い、また少しでも工賃を上げることができるよう日々取り組んでいきます。よろしくお願いいたします。



生活支援員
(職員・在宅予約)
米川 圭亮

在宅の予約業務と職員関係を担当させていただいています。新型コロナウイルスの感染拡大が続いており、この状況下で在宅の皆さまにはご迷惑をおかけしますが、皆さんと乗り越えていきたいと考えていますので、宜しくお願ひ致します。

新リーダー



生活支援員
(GH・在宅大人)
植村 雄一

グループホームと在宅利用者（大人）を担当させていただきます。入所利用者様やGH利用者様とは積極的にコミュニケーションを取り、信頼関係を作り意思疎通を図ってまいりたいと考えております。また通所の利用者様にも同様の取り組みを行いつつ、保護者の皆様とも情報交換を行い各々に適した支援を考えてまいります。



指導員
(放課後等デイ)
小林 大輝

放課後等デイサービス びーとるを担当させていただいている小林大輝と申します。他の職員と連携を図り、情報を共有しながら、お子さんの将来を考えて、支援させていただきますのでよろしくお願いいたします。